

「おおたけ授業スタイル」を ワークショップ型研修で確立

広島県 大竹市立大竹中学校

荒れから脱却して生徒を学習に向かわせるために大切なのは、授業を立て直すこと。大竹市立大竹中学校では、学校全体で授業改革に取り組み、生徒同士・生徒と教師間の信頼関係を構築。次第に授業規律が確立し、学力下位層の生徒にも、学習に向かう積極的な姿勢が育まれていった。

課 題

- 長く荒れた時期が続き、授業では私語・居眠り・立ち歩きなどが目立っていた
- 教師も生徒指導に追われ、学力向上にまで手が回らない状況だった

実 践

1 授業態度を改めるため 「5つの共通実践」を策定

- 教師が授業に際して守るべき規律を共通言語化
- それらの規律がきちんと守れているかどうか、「レベル表」や「ポートフォリオ」で教師が自己評価

2 「5つの共通実践」を踏まえた授業構成 「おおたけ授業スタイル」を作成

- 本時のねらいを提示する
- ねらいに迫る場面で、少人数グループを活用する
- 本時のねらいについての評価を行う
- 次時につながる課題を提示する

3 ワークショップ型研修を実施

- 研究授業の本番前に、教師が生徒役になる模擬授業を実施
- 事後研修会はポイントを絞って実施

成 果

- 共通理解に基づく教師の指導力向上
- 聞く姿勢など学習規律が定着
- 生徒の学習意欲が向上
- 問題行動が激減

School Data

◎1947（昭和22）年開校、62（同37）年に現在地へ移転した。不登校対策や小学校との連携に力を入れている。2008～10年度、文部科学省の学力向上実践研究推進校に指定される。



校長◎大石 泰先生

生徒数◎314人 学級数◎11学級（うち特別支援学級2）

所在地◎〒739-0614 広島県大竹市白石 1-8-1

TEL◎ 0827-52-5177

URL◎ <http://www.yuugao.jp/ohtakejhs/>

学力下位層が伸びる授業づくり

「一番に大切にすべきは「授業」」

大石泰校長が大竹中学校に赴任したのは2007年4月のこと。当時の同校は、「荒れ」から立ち直る途中にあった。校内暴力こそなかったものの、授業中の私語や立ち歩きが目立ち、授業が成立しているとは言いがたい状況だった。生徒指導に追われる多くの教師は、「授業までは手が回らない」という意識があったという。

しかし、そうした状況だからこそ、大石校長はあえて「授業を大切にすることを学校が目指そう」と呼びかけた。

「生徒が学校生活を送る中で、最も長く過ごす時間は授業です。対症療法的な生徒指導に頼るのではなく、一見、遠回りに見えても『授業を変えることで生徒たちを変えていこう』と呼びかけました」

これを受け、教務部や研究部を中心に議論を重ねた結果、目指す授業像を「生徒が分かった、楽しいと思える授業」とした。

「生徒が学びに向かわない背景には、授業が『分かった』『楽しい』と思えるような経験が少ないことがあります。そうした経験を積み、自分に自信を持つことができれば、一人ひとりの学力が少しでも向上するはずだと考えました」（大石校長）

そこでまず取り組んだのが、授業規律の立

て直しを重視した「5つの共通実践」（P.10図1）の設定だ。これは、生徒の行動についての規定ではなく、「教師が何をすべきか」「どこを変えるべきか」を示したものだ。研究主任の岡寺裕史先生は次のように説明する。

「生徒が『勉強が出来ない、分からない』というのには、『生徒に原因があるのではなく、私たち教師の問題である』という考えに立ちました。では、私たちがどうすれば生徒が授業に向かうのか。教師の態度を改めようとしたのが、『5つの共通実践』です。それまで叱ってさせていたことを褒めて伸ばそうとすると、生徒はとても前向きに取り組むことが分かりました。手応えを感じる中で、教師の意識もどんどん変わっていききました」

更に1年後、「5つの共通実践」が定着した頃を見計らって、教師の自己評価のための「レベル表」を作成した。「5つの共通実践」をそれぞれ5段階に細分化し、学習規律だけでなく、指導方法や指導内容まで踏み込み、自分の授業がどのレベルにあるのかを確認できるようにした（P.10図1）。

「教師一人ひとりがより高いレベルを目指すための視点や方策を意識し、授業に臨むことが出来るように工夫しました」（大石校長）

全教科の授業構成を「おおたけ授業スタイル」に

09年度には、「5つの共通実践」を踏まえ



大竹市立大竹中学校校長
大石 泰 Oishi Yutaka
「向上心を持つことを大切にし、『更に伸びる』という気持ちで研究を続けていきたい」



大竹市立大竹中学校
岡寺裕史 Okatera Hiroshi
研究主任、2学年担当、数学科担当。「裏方に徹して前に出過ぎず、後方支援をしつかりしていきたい」

つつ、授業構成に踏み込んだ「おおたけ授業スタイル」（P.10図2）を作成し、「ねらいの明示」「少人数グループの活用」「指導的評価」「次時につながる課題提示」の4点を必ず押さえた授業を全教科で展開することにした。

「まず、生徒に授業のねらいを伝え、それに迫るために中心となる発問をしつかりつくる。中心発問には小集団で取り組ませ、しつかり生徒を見て評価しよう。そして、まとめをして、次時の学習や家庭学習につなげていこう。こうした授業展開を全教科に適用させるのが、『おおたけ授業スタイル』なのです」（大石校長）

「あれもこれも取り組もうとすると、教師の負担が大きくなり、続けるのは難しくなります。そこで、分かりやすく簡潔にまとめようと、この4点に絞りました。皆が覚えやすいように、そして『みんなでき取り組んでいこう』という思いを込め、教務部と研究部で考

図1 「5つの教育実践」とレベル表

5つの共通実践	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
1 教師はチャイムが鳴る前に教室に行きます。	<ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴ったときには、教室にいる 授業の終わりに、次時の授業準備をするよう指示している 	<ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴る前に教室へ行き、授業道具の準備や着席を促している 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板に本時の授業のねらい等を書いて、それらをノートに写してチャイムを待つように指導している 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに小テストや宿題チェックなどを行っている 授業の始まりのスタイルをつくっている 	<ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴る前に教科係が、全体に対して、学習の指示ができるように指導している
2 授業の始まりと終わりにお互いが気持ちのよいあいさつをします。	<ul style="list-style-type: none"> 教師自身が生徒に対して気持ちのよいあいさつをしようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> 服装が整っていないかったり、頭を下げない生徒がいたりしたとき、声を発しようとしている(個人への注意、全員への呼びかけ、指導的評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 「気をつけ」の姿勢ができていない生徒がいる時に、声を発しようとしている(個人への注意、全員への呼びかけ、指導的評価) 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつの意義について折に触れて指導し、声の大きさや全員が声を出していることなどについて即座に評価する姿勢をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> 「お願いします」の前に、本時の授業内容にふれる発言をするなど、授業に臨む姿勢を喚起する 「ありがとうございました」の前に、授業評価を行い、感謝の気持ちを喚起する
3 生徒が発言できる場を多くもち、挙手する機会を多く与える授業づくりをします。	<ul style="list-style-type: none"> 一問一答ではあるが、発言する機会を作っている 発言する生徒とのやりとりで授業を進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手・起立など学習規律や発言のルールについての指導を行っている 多様な答えが出る発問を準備している 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方などきめ細かな指導を行っている 個人思考と集団思考の場を設定し、中心発問、補助発問を明確にしている 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力・判断力を高める発問を準備している 発表内容を高めていくために、つなぎ発言や関連発言などを出させる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容をもとにして、生徒が日常生活との関連や、さらに進んだ内容への発展について考えるような教材や発問を準備している
4 みんなが発表者の方を見て聞く姿勢をもちます。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を見て、聞く姿勢に注意している 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が発表者の方を向いて聞こうとするまで待つ姿勢がある 	<ul style="list-style-type: none"> 指導的評価をしている 生徒が目立たなくなるような具体物を持ち込んで、聞きたくなる工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 中心発問に対する発表に、「付け加え」たり、「深め」たりする発言を促し、学習内容を深めようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに迫るために、しっかりと考えさせる場を提供し、生徒が学習に真剣に取り組む雰囲気をつくっている
5 教師は1回の授業で5回以上生徒をほめます。	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律について、全体的にほめる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律について、一人一人の質的な高まりをほめる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律について、なぜ質が高いのか等、生徒の行動を価値づけてほめる 	<ul style="list-style-type: none"> 1人のとった学習方法の良さや意義を価値づけてほめる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容について、授業のねらいに向かう高まりを即座にとらえて、そのよさや意義を価値づけてほめる

え、「おおたけ」と語呂を合わせました」（岡寺先生）

「おおたけ授業スタイル」を徹底するため、指導案にはどこが当てはまるのかを必ず明記する。また、黒板には、「本時のねらい」「本時のポイント」「やってみよう」というプレートを張った。生徒に対して、今、授業がどの段階であるのかを明示するための工夫だ。

授業展開の中で特に重視するのは、少人数グループでの話し合いだ。

「自分と友だちの意見をぶつけ合いながら、一つの目標に向かって意見交換をする中で自分の考えを高めていく。そうした授業を通して人間関係を築いていくことで、学習意欲や学力が向上するのです」（大石校長）

図2 おおたけ授業スタイルの内容

お おおきな文字で、ねらいをかこう！

- 本時のねらいの提示

.....

お おさえどころは、グループ・ペアで！

- ねらいに迫る中心発問、中心活動の明確化

.....

た だいじなポイントすかさずほめる！

- 本時のねらいについての評価

.....

け けいぞくさせよう家庭学習！

- 学習意欲や次時につながるまとめや課題

月1回のワークショップ型研修で授業力向上を図る

こうして形作られた「おおたけ授業スタイル」をしっかりと定着させるため、同校は校内研修にも力を入れる。09年度からは、指導案作成から校内研修後までの一連のプロセスを「校内研修システム」として明確にし、研究授業を2か月に1回行っている。

「校内研修システム」は次の手順となる。

- ① 模擬授業 研究授業の前日までに、教師が生徒役となり、研究授業の模擬授業を行う。生徒役となった教師は、授業案改善のためのさまざまな提案を行う。

- ② 授業案の改善 研究授業当日までに、授業

「学力保障」のために、移行期間の今できること

第2回

学力下位層が伸びる授業づくり



写真1 事後研修会の様子。ポイントを絞って、時間を区切って行うので、活発な意見が交わされる

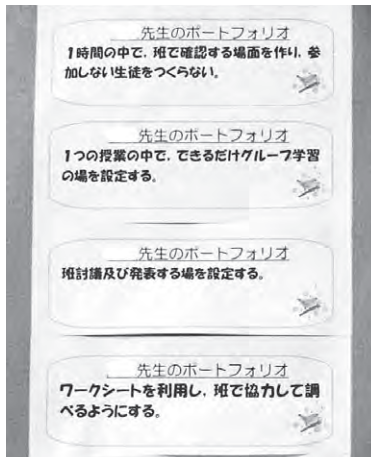


写真2 個人ポートフォリオ。教師一人ひとりが自身の授業改善の課題を明示する

者は出された意見を反映して指導案を見直す。

③ 研究授業 年間計画で時間は確保してあり、教師全員が参加。参観する教師は気づいた点をどんどん付箋紙に書き込む。

④ 事後研修会 学年別にグループをつくり、「Good」（良い点）と「More」（改善点）について、授業中に書いた付箋紙を用いながら

KJ法（*）によってまとめていく。最後は班ごとに話し合いの結果を発表する。議論のポイントをあらかじめ決め、時間を区切って集中して議論する（写真1）。

「例えば、『5つの共通実践』の『みんなが発表者の方を見て聞く姿勢をもちます』という項目に絞る場合は、聞きたくなるような授業構成や発問が出来るか、そういった指導技術がどこにあるのか、という視点で授業を見て、事後研修を行います。また、あらかじめ観察対象として選んだ生徒がどのような状況で耳を傾けていたか、あるいは聞いていなかったかを観察します。見るポイントを絞ることによって研修が活性化し、授業改善につながるような議論が出来るようになります」（岡寺先生）

班別の話し合いでは活発に意見が交わされ、時おり笑いも起きる。授業改善のための学びが多く得られる機会として、教師全員が楽しみながら、前向きに取り組んでいる。

また、議論を深めるため、年5回、外部講師を招いて客観的な視点からの検証も行うている。

教師一人ひとりの授業改善を記録したポートフォリオを作成

このようにして行う授業改善は、教師一人ひとりが「個人ポートフォリオ」として記録する（写真2）。教師は一人ひとり、「5つの

共通実践」の中で重点目標を決めるが、その成果と次への課題、授業改善のあゆみをつづっている。

重点目標は目につきやすいよう、印刷室のコピー機前に掲示。これにより、職員室で授業改善についての会話が日常的に交わされるようになった。

ポートフォリオは週案とも連動している。週案には、各自の重点目標に関して5段階評価をし、評価や反省を書く欄が設けられている。管理職や教務主任がこれらの自己評価に目を通し、アドバイスできるようにしてある。

授業態度が落ち着き 学力下位層にも学習意欲が

「5つの共通実践」おたけ授業スタイル」などの取り組みを続ける中で、生徒の授業態度は徐々に落ち着いていった。06年度には40件あった問題行動は毎年減少し、09年度は6件にまで減った。学力下位層にも、授業に積極的に取り組む意欲が芽生え、文部科学省の全国学力調査のスコアも改善してきた。

「先生が授業に対して本気で、生徒一人ひとりと向き合っていることが伝わり、信頼関係が生まれていることが大きいでしょう。しかし、本校の授業改善はまだまだこれから。生徒の学力が更に伸びるよう、全校一丸となって頑張っていきたいと思います」（大石校長）

* あるテーマについての課題やアイデアを紙に書き出して整理する、情報収集や課題整理のための手法

おおたけ授業スタイルの実践例 ① 2年生数学 「連立方程式」 (岡寺裕史教諭)

本時の目標……… 係数の異なる連立方程式を工夫して解くことが出来る

観点別評価の規準… 第三の式を作って、係数をそろえて加減法で連立方程式を解くことが出来る

	学習活動 (主な発問と予想される生徒の反応)	指導上の留意点 / 努力を要すると判断される生徒への手立て
導入	<p>1 宿題の確認 ○黒板に書いて確認する</p> <p>2 導入</p> <p>ハンバーガー3個とポテト2つで980円。 ハンバーガー1個とポテト1つで380円である。 ハンバーガー1個の値段は何円だろうか。</p> <p>○宿題のように違いを考えただけでは求まらないことに気づかせる</p> <p>2つの式を工夫して計算し、ハンバーガーの値段を求めよう</p> <p>●引いたらハンバーガー2個とポテト1つで600円になる ●これを式にしたら使えないかな</p>	<p>◆指導上の留意点 / ◆努力を要すると判断される生徒への手立て</p> <p>おおたけ授業スタイル お おおきな文字で、ねらいを書こう! ●本時のねらいの提示</p> <p>◆課題を提示する ◆2つの式以外の式を作って利用したら良いことに気づかせる</p>
	<p>3 ハンバーガー1個の値段を計算で求める</p> <p>●ハンバーガー1個の値段をx円、ポテト1つの値段をy円とすると、 上の関係は $3x + 2y = 980$…① 下の関係は $x + y = 380$…② と表わされる</p> <p>●違いを調べて①-②とすると $2x + y = 600$…③ と表される</p> <p>4 ハンバーガー1個の値段の求め方を発表する</p> <p>どんな工夫をしたら求めたのか、わかりやすく説明しよう</p> <p>●②×2をして$2x + 2y = 760$…④として、 ①-④をしてxを求める</p> <p>●②×3をして$3x + 3y = 1140$…⑤として、 ⑤-①をしてyを求めてからxを求める</p> <p>●③-②をしてxを求める</p> <p>●いつでも使えるのは①-④の方法だね</p>	<p>◆yの絶対値と符号が同じ2つの式が出来たら良いことを押さえる</p> <p>おおたけ授業スタイル お おさえどころは、グループ・ペアで! ●考えを交流し、深めさせる</p> <p>◆はじめに個人で考えさせ、見通しを持たせて班で話し合わせる</p> <p>おおたけ授業スタイル た だじなポイントすかさずほめる! ●視点を褒めて、更に既習の正確な用語ではっきり説明させる</p> <p>◆発表に対して切り返し発問を行い、思考を深めさせる ◆「yの絶対値と符号が同じ2つの式が出来た」ことを確認し、どの変形もそれを見通していることを理解させる</p>
まとめ	<p>5 解き方についてまとめる</p> <p>●「yの係数が異なる場合は、一方の式を何倍かして係数をそろえて引けば良い」</p> <p>6 適用題、宿題の指示を出す</p> <p>●同様の問題 ●同様の問題2つの式を共に何倍かして、最小公倍数でそろえる問題</p>	<p>おおたけ授業スタイル け けいぞくさせよう家庭学習! ●「出来る」と思わせ、興味を継続させると共に、発展的に考えさせることで理解を深める</p>

学力下位層が伸びる授業づくり

おおたけ授業スタイルの実践例 ② 1年生体育「球技(バレーボール)」 (本田浩実教諭)

本時の目標／観点別評価の規準

- ① 安全を確認し、協力しながら活動できる 【関心・意欲・態度】
- ② パス回数を増やすために、個人や班で作戦を考えることができる 【思考】
- ③ オーバーハンドパスとアンダーハンドパスを適切に使い分けができる 【技能】
- ④ コートの使い方やネットの設置の仕方を理解している 【知識理解】

	学習活動 (主な発問と予想される生徒の反応)	◆指導上の留意点／◆努力を要すると判断される生徒への手立て
導入	<p>1 準備を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> リーダーを先頭に、班ごとに6列縦隊に集合する 元気に気持ちのよい挨拶をする 班内で出欠確認等を行い、リーダーが班の状況を報告する <p>2 本時の目標と内容を把握する</p> <p>ラリーを続けるための要素を見つけよう！ ←</p> <p>3 班ごとに準備運動と基本運動を行う</p>	<p>◆決められた役割を果たすように声掛けをする</p> <p>◆集合状態の良い班、声掛けが出来ている班を評価する</p> <p>◆素早い行動を意識させる</p> <p>◆出来ない場合は挨拶の意義について簡単に触れ、やり直しをさせる</p> <p>◆リーダーの報告の仕方を評価する。あわせて聞く態度についても評価する</p> <p>◆本時のねらいを提示し、学習内容についても簡潔に説明する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おおたけ授業スタイル お おおきな文字で、ねらいを書こう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本時のねらいの提示 </div>
展開	<p>4 練習1(円陣パス)を行う</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 円陣パスを続けるための作戦を班で話し合う ← <p>ラリーを続けるためには、何を工夫したら良いだろう？</p> <p>5 練習2(班で考えた隊形等を生かした変形円陣パス)を行い、回数を競う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標を達成した班から練習3(簡易ゲーム)を行う。各班で工夫したこと、確認したことを発表する 	<p>◆ 4つの班で、時間内(5分間)に一番継続した回数を競わせる</p> <p>◆ 声を掛け合ったり、回数を全員で数えたりしている班を紹介し、そのことになぜ意味があるのかを全体の場で示す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おおたけ授業スタイル お おさえどころは、グループ・ペアで!</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 少人数班の活用でねらいに迫る </div> <p>◆ 画用紙に記入させる</p> <p>◆ 各班の話し合いを聞き、隊形や声掛け、役割分担等について工夫の余地があること、また、パスの使い分けや基本姿勢(構え)も重要であることを確認する</p> <p>◆ 各班を回り、技術的なアドバイスをを行う</p> <p>◆ 目標回数を50回とし、クリアした班から練習3(簡易ゲーム)に取り組みさせる(練習3にまで到達できない班もあり得る)</p> <p>◆ 安全面で危険な行為があったとき、全体で確認した方が良いと思われる行為があった場合は緊急で生徒を集め、全体指導を行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おおたけ授業スタイル た だいじなポイントすかさずほめる!</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今日の授業のポイントの明示 ● ねらいに迫る発表を褒める </div>
まとめ	<p>6 整理運動</p> <p>7 各班で工夫したこと、確認したことを発表する ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本時の評価、次時の予告を受ける ● 後片付け 	<p>◆ 各班にしっかり運動をさせる</p> <p>◆ 班で発表させる</p> <p>◆ 発表の仕方や聞き方、内容について評価する</p> <p>◆ ねらいに迫る個人や班の動きについて評価する</p> <p>◆ 次時の予告は簡潔に行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おおたけ授業スタイル け けいぞくさせよう家庭学習!</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習意欲や次時につながるまとめや課題 </div>